

佐々木洋教授退職記念号発刊に寄せて

経済学部長 鏡 味 秋 平

佐々木洋先生の定年によるご退職に際し、札幌学院大学総合研究所経済研究部会は紀要「札幌学院大学経済論集」の記念号を発刊し、感謝の意を込めてここに謹呈いたします。

佐々木洋先生は2011年3月をもって定年により本学を退職されました。佐々木先生は1942年に静岡県でお生まれになり、1967年に北海道大学農学部農業経済学科を卒業後、1969年に同大学大学院農学研究科で修士課程を修められました。1969年からは本学の前身である札幌短期大学商業科助手として赴任され、1978年に札幌商科大学商学部助教授へ、1991年に札幌学院大学経済学部教授へと昇任され、実に42年と長きにわたり教鞭をとられ、本学の教育・研究に多大なるご貢献をされてきました。経済学部では、「日本経済論」、「景気循環論」などを担当されております。また、1977年5月から1984年5月までと1993年5月から1999年5月までの二つの期間にわたり学内理事、2003年4月から2006年3月まで経済学部長を務められるなど教育研究に従事する一方で、学内行政においてもご尽力いただきました。

先生の研究分野は、日本経済論とロシア研究に分けられます。前者は、日本経済の発展過程と1990年代以降の長期的不況を景気循環的な視点から明らかにしようとするものであります。そればかりでなく、1970年代には北海道の地域開発問題や農民問題を取りあげられ、資本にとっての北海道の位置づけをめぐる研究成果を発表されております。そして1980年代以降は欧米の資本主義との比較を行うなど、1990年代以降の日本資本主義の景気循環論的な分析へと結実していきます。その成果は、政治経済年表の作成に見られるように歴史的視点でもって分析されております。

一方、後者については、ロシアのジョレス&ロイ・メドウェージェフ氏の翻訳を通じたソ連・ロシアの農業改革に関する研究です。その成果の一つは、『ソヴィエト農業1917-1991—集団化と農工複合の帰結』に集約され、現在でもロシア農業の研究者にとっては貴重な資料となっています。また、2011年3月に発生した東日本大震災とその後の原発事故についても、チェルノブイリの経験をいち早く翻訳し紹介していただくなど、このたびの震災をご自身の課題として受け止められ、真摯に取り組んでおられます。

また、佐々木先生は研究活動の組織者としても、1997年に本学の50周年事業の一環として内外の研究者を招いて開かれた国際学術シンポジウム「市場社会と共生原理」においてお力添えをいただきました。

佐々木先生には特定の研究分野だけでなく、幅広くいろいろなものを吸収しようとする研究姿勢が見られます。中国の西部大開発の共同研究やウォルマートの研究など幅広い研究を行っています。またすでに述べたように理事などの学内行政にも深く携わっております。これは佐々木先生の包容力、行動力のある人柄の現れともいえます。学生への講義資料も丹念に準備されるなど教育への熱意も人一倍もたれています。

このように、佐々木先生が本学にたいして果たしていただいたご貢献は数々にのぼります。

最後になりましたが、今後ますます健康に留意され、人生の先達として、ご指導を賜りますようお願いいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。